羅馬尼亜国　露西亜国
暹羅国　瑞典諸威国
勃爾牙利国

第四（丙）外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ若ハ扁平トナルヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スルコトニ関スル宣言

独逸国　墺地利洪牙利国
白耳義国　丁抹国
西班牙国　仏蘭西国
伊太利国　和蘭国
波斯国　羅馬尼亜国
露西亜国　暹羅国
瑞典諸威国　勃爾牙利国

右御通知旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百年十月二十五日東京ニ於テ

第十四章　雑録

一七八　明治三十三年十一月二十七日　露国駐劄杉村臨時代理公使ヨリ青木外務大臣宛

南阿事件ノ勃発ニ際シ萬国平和会議ノ使命ニ関シ「マルテンス」ノ意見送達ノ件

送第九十八号　明治三十三年一月十七日接受

露国政府ヨリ派遣シタル海牙平和会議参列委員ノ一人タリシ外務省顧問官公法学博士マルテンス氏ハ今般トランスバール事件ノ起リシニ際シ世人ガ海牙平和会議ニ嘱望ノ多キヲ宜ヘ弁明的論文ヲ草シテ世上ニ公ニセリ右論文ハ（別添）本月十六日刊行ノ官報ヲ始メトシ其筋ノ陸海軍事雑誌及諸新聞ニ普ク掲載セシメシモノニ有之即チ海牙平和会議ニ対スル当国政府ノ意見ト看做シ得ベキモノト存候ニ付御参考ノ為メ左ニ之ヲ抄訳差進候

俄然南亜弗利加ニ起リシ戦乱ハ自ラ世界文明諸国ノ注意スルトコロタリ実ニ海牙平和会議ノ閉会以来未ダ二ヶ月ヲ経過セザルニ既ニ再ヒ軍争惨憺ノ状ヲ見ルニ至ル

想フニ世人ガ海牙平和会議ニ望ヲ嘱スルコト彌多ケレバ其多キニ従テ右平和会議ガ全フセシ事業ノ益少キヲ感スベク四海安穏ヲ切望スル諸友ガ流血淋離タル惨劇無カラン事ヲ欲スルノ念彌熾ナレバ其熾ナルニ伴ヒ南方亜弗利加ノ激戦ヨリ齎ラセル非道ヲ得テ憫哀ノ情ハ益真ニ逼マルベシ吁々世界ノ慈女慈男ガ赤十字ノ保護ノ下ニ於テ善事ヲ完フスルノ時再ヒ来レリト云フベキナリ

凡ソ戦乱惨状ノ哀ムベキハ実ニ哀ムヘクシテ此間事理自ラ明瞭ナレドモ今日南亜弗利加ニ於テ悽凉タル修羅場ヲ演出スレバトテ何ゾ之ヲ以テ海牙平和会議ノ罪ナリト誣フルヲ得ンヤ抑モ如何ナル理由ニ基キテ海牙平和会議ガ有ラユル戦乱ヲ芟除スベキモノナリト思意スルヲ得ルカ将又如何ナル論拠アリテ南亜弗利加ノ戦乱ハ海牙平和会議ノ反響ナリト断定スルコトヲ得ル乎

海牙平和会議ハ将来各国ノ間ニ於テ戦争ヲ絶ツノ希望ヲ抱カザリシナリ斯カル想像ハ現世各国民間一切ノ関係ヲ

変改シタル後ニ於テ始メテ決シ得ベキノミ人類未ダ人類ニ止マリ国民未ダ其国民ノミノ利益ヲ思ヒ政府未ダ其政府ノミノ便利ヲ謀リ其国ノ国風其国ノ威厳ヲ保タント欲スル間ハ不幸ナガラ国民ト国民間ノ衝突ハ免カルベカラズ戦争ハ結局避クベカラザルモノナリ

斯カル逐序的事実ヲ察セバ海牙平和会議タルモノ自ラ其職掌ノ範囲ヲ算出セザルベカラズ去レバ海牙平和会議ハ避クベカラザル国民ノ衝突ヲシテ終ニ好和的好結果ヲ告ゲシムルノ手段ニ就キ特別條約ヲ協定セシナリ海牙平和会議ハ各国ガ有ラユル好和的手段ヲ尽セシ後萬已ムヲ得ザル場合ニ於テノミ其権利利益ヲ保護スルガ為メ非常ノ手段ニ訴ヘ得ル事ヲ取極メタリ海牙平和会議ハ戦法及戦時慣例ノ規定ニ専ラ其力ヲ用ヒタルガ如ク将来国民間ノ戦乱ヲ全ク芟除スルガ如キニ至リテハ元来甚ダ覚束ナキモノト算定セシナリ右会議ニ於テ陸戦法及海戦ノ際赤十字社ノ行為ニ関シ協定調印シタル條約コソ全ク此列国会議ノ真相ヲ示スノ證憑タルヘシ実ニ海牙平和会議ハ戦争ヲ以テ国民ニ取リテハ此上ナキ凶事ナリト認メタリ然レトモ右会議ハ此最大凶事ヲ永遠ニ遏絶シ得ザルナリ勿論海牙平和会議ハ此等凶事ヲ以テ国民ノ苦懐ト算シ而シテ全ク其打撃ヲ排除センコトヲ勤ムベキ筈ナレドモ到底此等不幸ハ国民ニ避クベカラズ仮令其全滅ニ尽力スルモ終ニ其効ナキヲ察セシ暁ニ於テ唯此最凶戦乱ノ犠牲タルベキ不運ナル国民ノ不幸ヲシテ可成的減少セシムルコトヲ勤メタルナリ

今海牙平和会議熟議ノ結果ヲ挙グレバ大体左ノ二件ニ抱括スルヲ得

第一、平和会議ハ誠実ヲ以テ萬国平和ヲ保持スルガ為メ適当ナルモノトシテ調停裁判ノ方法ヲ設ケタリ

第二、平和会議ハ惨酷ナル凶器ノ使用ヲ制限シ戦争ヨリ生ズル不幸ヲ減却スルノ方法ヲ以テ交戦国ノ行為ヲ改良シ而シテ一般国民ハ其中立国タルト交戦国タルトヲ問ハズ戦乱ノ不幸ニ遭遇セル国民ノ生命及健康ノ保護ニ力ヲ尽スベキ事ヲ規約セリ

戦争ノ如キ人民一般ノ害悪ニ対シ各国民ノ共同保護ト云ヘル事ニ付法理ヲ定メル事及現世各国ヲ通ジテ所謂国民間ノ衝突ヨリ生ズル不幸及危険ニ対シ相互ノ補助及保険ノ組織ヲ講ズル事等是即チ海牙平和会議ノ忘レ難キ大業ナリシナリ

吾人ハ我慈仁ナル至尊ノ発意ニ基キ露国ノ提議シタル此大業ヲ共ニセシ世界ノ諸友ガ徒ラニ海牙平和会議ガ豫期セザリシ事柄ヲ枚挙セズ否其既ニ成功セシ結果ノ発達及其保護ニ付共ニ只管力ヲ尽サンコトヲ望ムモノナリ

兎ニ角海牙平和会議ハ凡ソ戦乱ヨリ生ズル無数ノ不幸ヲ可成的芟除センガ為メ一切必要ナル方法ニ対シ鞏固ナル地盤ヲ設ケタルモノニシテ国際史上ニ一新紀元ヲ開キシモノト云フベシ然レドモ国民間ノ戦争ヲシテ全ク遏絶セシムルコトニ至リテハ海牙平和会議ハ嘗テ其希望ヲ有セズ否之ヲ有スルモ達スル能ハザリシナリ

マルテンス氏ガ右論文ヲ起草シタル原因ニ付テハ種々評判有之中ニハ前顕世人ガ平和会議ヘ屬望ノ多キヲ宣ベシノミナラズ当国畏キ辺ニ於テモ同様該会議ニ多ク望ヲ屬セラレシニ図ラズモ閉会後間モナク南亜事件ノ起リシヲ以テ折角ノ発意空想ニ屬シタルガ如ク残念ニ思召メサレ候結果政府ガマルテンス氏ヘ命シテ起草セシメタルナリト申スモノモ有之候

右御報申進候　敬具

明治三十二年十一月廿七日

在露　臨時代理公使　杉村虎一（印）

外務大臣子爵　青木周蔵殿

一七九　明治三十二年十二月四日　蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ青木外務大臣宛

萬国平和会議ニ羅馬法廷並南亜弗利加共和国ヲ招待セザル件ニ関スル議会ノ質問ニ対シ蘭国外務大臣ノ答弁書進達之件

附屬書　千九百年蘭国外務省豫算ニ関シ同国第二議院委員会ノ質問ニ対スル外務大臣ノ答弁

公第七五号　明治卅三年一月十日接受

曩ニ当国政府ハ列国平和会議ニ羅馬法廷並南弗共和国ヲ招待セザル件ニ就テハ反対党中政府ノ措置ニ対シ不満ヲ懐ク向モ有之候趣兼而伝聞致居候処今般第二議院ニ於テ外務省豫算案ヲ議スル際果然右ニ関シ反対党ヨリ質問ヲ提出シ之カ為メ一時外務大臣ノ進退ヲ云々スルノ世評ヲ耳ニスルニ至リタルモ同大臣ハ別紙訳文之通右ニ対シ答弁ヲ与ヘ反対党モ此点ニ就キ更ニ攻撃ヲ試ムルコトナク其儘ニ相成候右答弁中平和会議ノ参列ニ関シ御参考ノ一料ト相成可申相認候点モ有之候ニ付左ニ訳記及報告置候　敬具

明治三十二年十二月四日

在蘭　弁理公使　珍田捨巳（印）

外務大臣子爵　青木周蔵殿

（附屬書）

千九百年蘭国外務省豫算ニ関シ同国第二議院委員会ノ質問ニ対スル外務大臣ノ答弁

凡ソ政府ノ政治事件ハ其時機ニ先タチ軽卒ニ之ヲ公報スルヲ得ス特ニ平和会議ニ於ケル場合ノ如キハ最モ然リトス該会議ノ行事ノ如キハ公衆ノ普知スル処ニシテ其議事録モ亦不日刊行セラレントス然レトモ該会議開会以前ニ於テ欧洲各首府間ニ往復セル秘密ノ交渉ニ至テハ現下ハ勿論将来ト雖モ該会議ノ遂ニ歴史的記事ニ屬スルマテハ此ヲ公ニ出版スルコト能ハサルベシ現ニ夫ノ英国外交文書彙報ヲ見ルモ此類ノ交渉文書ハ包含セサルヲ知ルベシ

元来外国政府ヨリ出テシ文書ニ関シテハ豫メ該政府ニ照会シテ其承諾ヲ得タル後ニ非ザレバ之ヲ刊行セサルハ本大臣ガ居常恪守スル処ノ方針ナルノミナラズ各国政府共通ノ慣例ナリトス

平和会議ニ関スル諸問題ニ対スル本大臣ノ措置ニ付テ説明セン

ニ本大臣ハ千八百九十九年一月廿五日ニ於テ露国政府ヨリ海牙ニ於テ平和会議ヲ招集セントスルノ請求ヲ接手セシニ依リ直ニ此ヲ内閣会議ニ附シ閣僚協議ノ上右請求ヲ肯諾セラレンコトヲ我女王陛下ニ奏請セリ而シテ此請求ニ応セサリシ点ニ付テハ本大臣ハ更ラニ進ンテ左記ノ点ニ就キ諸君ノ注意ヲ催サントス即チ千八百七十年来羅馬法王ハ未タ嘗テ萬国会議ニ招待セラレサリシコト是ナリ尤モ今回ノ萬国平和会議ニ関シテハ必ズシモ此慣例ヲ墨守スルヲ要セストノ議若シ衆論ヲ制スルヲ得バ露国政府ハ素ヨリ和蘭政府ニ於テモ敢テ異議ヲ唱フルコトナカルベキハ論ヲ俟タスト雖モ当時ノ状勢ヲ察スルニ羅馬法王ヲ招待セハ其結果トシテ欧洲雄国中若干国ノ不参同ヲ見ルニ至ルヘキハ覩易キ趨勢ナリシ之ヲ要スルニ当時ノ問題ハ左ノ二途ニ分岐セリ即チ四半世紀ニ亘レル慣例ヲ無視シ平和会議ヲ失敗ニ帰セシメンカ乎（蓋シ欧洲各国ノ参列ハ該会議ノ為メ最モ必要ノ條件ナリ）将タ千八百七十年来継承ノ慣例ニ遵由ス可キ乎ノ二大問題是ナリ

第二議院議員ノ中ニハ右二問題ニ対セル議決ニ対シ失望ヲ抱クモノアルハ政府ノ察知スル処ナリト雖モ我政府カ当時此議ニ反対スルノ困難ハ諸氏ノ諒察ヲ期セサルヲ得サル処ナリ

南亜共和国ニ附テハ困難ノ性質大ニ其趣ヲ異ニス我政府ハ決シテ該共和国カ平和会議ニ参列ヲ望ムコトヲ知ラサルニ非ラス又其参列ヲ見ルハ政府ノ満足トスル処ナリ然レトモ

スルニ当リ條件ヲ附スルカ如キハ到底為シ能ハサル処ナリキ蓋シ当時若シ承諾ニ條件ヲ附シタランニハ是レ恰モ拒絶ニ均シクシテ体裁ヲ失スル事明確ナル拒絶ニ比シ更ニ甚シキハ疑ヲ容レサル処ナリ

我政府ハ此請求ヲ拒絶シ得ルコトハ素ヨリ論ヲ俟タス詳説スレバ蘭国政府ハ平和会議ノ目的ヲ達スルタメ切ニ羅馬法廷及南阿二共和国参列ノ必要ヲ感ズルモ右参列ニ対シテハ某々諸国ノ同意ヲ得ルノ見込立タサルガユヘニ露国政府ノ請求ニ応シ難シトノ意ヲ以テ之ヲ拒絶スルカ如キハ固ヨリ我政府ノ権内ニ存セルヤ疑ナシ然レトモ若シ我政府ガ前述ノ挙措ニ出テタランニハ其結果トシテ平和会議ハ他国ニ集合シ羅馬法廷及両共和国ハ之レカ為メニ毫モ利益スル処ナキノミナラズ我蘭国政府ト雖モ一旦右参列問題ヲ主張シタル上ニ於テ其持論ニ反セシ会議ニ列席スルハ多少其威厳ヲ損スルカ如キ位地ニ立タサルヲ得サルヘシ右ノ如ク我国政府ヲシテ参列ノ機会ヲ失ハシムルカ如キ挙措ハ決シテ我国利ヲ進ムル道ニ非ラサルコトヲ信ス本大臣ハ本国ノ利益ヲ顧念スルハ職責ノ第一義ナルヲ確信セルヲ以テ直チニ海牙開会ノ議ヲ瞬時モ惑フ処ナク決スルニ至レリ

和蘭政府ヨリ羅馬法廷及両共和国ニ対シ本会議ニ招待ヲ発此議ニ関シテ我政府ハ第一露国及其他政府ト交渉ヲ試ミタルモ其結果ハ本大臣ヲシテ右招待ハ却テ該共和国ノ利ニ非ラサルベキヲ看取セシメタリ詳言スレバ南亜共和国ヲ以テ国際上純然タル独立国ト見做シ平和会議ニ参列ヲ認諾スルノ一事ハ決シテ英国ニ於テ隠忍セサルヤ明瞭ニシテ若シ英国ニシテ此ヲ甘諾スルモノトセバ恰モ土耳其カ主権者タルノ資格ヲ以テ「ブルカリー」国ニ要求セシト均シキ條件ヲ附セシ事ナルベシ加之ナラス本大臣ハ若シ此点ニ附キ交渉ヲ試ミントセハ必ス先ツ南亜共和国政府ヨリ請求アルヲ要スルハ事理ノ覩易キ処ナリ而シテ主権ノ有無ハ当時英杜両政府間ニ蟠結セル一大問題ニシテ英政府ハ其主権ヲ楯トシテ各種ノ條件ヲ提出スルハ明白ナルカユヘニ両者ノ間氷炭相容レサルヘキハ最モ逆視シ得ヘク結局「トランスバール」国ニ於テ英国ノ主権ヲ否認スルノ間ハ和蘭政府ハ如何ニ其問題ニ斡旋スルモ到底両国ノ調停ヲ見ルヲ得サルヤ明ナリ情勢如斯ナルヲ以テ本国政府ハ居中交渉ヲ試ムルモ結局従労ニ帰スルノミナラス蘭国人民ヲシテ和蘭政府ハ勿論杜国ノ為ニモ不平ヲ感ゼシムルニ至ルベキ耳

一八〇　明治三十三年三月三日　蘭国駐劄珍田弁理公使ヨリ青木外務大臣宛

和蘭政府ガ平和会議ニ於テ協約シタル国際争議平和処分規程ニ関スル約定ヲ批准スルノ法律案ヲ国会ニ提出シタル件

附属書　蘭国議会関係文書

公信第八号　四月十九日接受

平和会議ニ於テ協約シタル国際争議平和処分規程ニ関スル約定ハ常置国際裁判所ヲ海牙府ニ創設スルノ規約ヲ包含シ同規約ノ結果和蘭政府ハ該裁判所創設維持ノ為メニ所要ノ経費ヲ負担セザルベカラザルノミナラズ其ノ組織方法ニ関シテモ亦豫メ用意スル所アルヲ要スルヲ以テ憲法ノ規定ニ従ヒ同約定ヲ批准スルニ先タチ国会ノ承認ヲ求ムルノ手続ヲ踐ムベキ順序ニ有之候為メ同政府ハ去一月三十日附ヲ以テ右約定ニ関スル法律案ニ詳細ノ説明書ヲ添ヘ第二議院ニ提出致候本件ハ議会ニ於テ愈々確定発表ヲ待チ報告ニ及ブベキ筈ニ有之候処爾来議会ニ於ケル状況ヲ見ルニ反対ノ模様ハ之ナキモ他ノ要務ノ為メ議事案外ニ遅延シ決議ニ至ルマデハ今後猶数旬ヲ要スベキ模様ニ付別紙ヲ以テ同法律案並ニ其説明書共一応及御報置候就中同案ニ伴ヘル説明書ハ国際仲裁々判ニ関スル歴史上ノ変遷輿論ノ盛衰等ヲ叙述シ遂ニ露国皇帝ノ発意ニ依リテ実効ヲ挙グルニ至リタルノ成績ヲ賛揚シ更ニ海牙府ガ裁判所々在地タルノ栄誉ヲ荷フニ至リタルノ満足ヲ表白シタルモノニテ同案提出ノ無形上ノ目的ハ寧ロ同説明書ノ内容ニ在リト被認候将又他ノ約定二種中ジェネバ條約ノ條規ヲ海戦ニ適用スベキ約定モ亦タ第一約定ト等シク国会ノ協賛ヲ要スルヤ否ヤニ関シ是マテ外務司法両省間合議中ノ趣ニ有之候処愈々協賛ヲ要スル事ニ決シ今回再ヒ右ニ関スル法律案ヲ国会ニ提出スル事ニ相成候由ニテ来四月中旬迄ニハ何レモ確定ニ至ルベキ見込ナル趣ニ有之候此段及具申置候　敬具

明治三十三年三月三日

在和蘭　弁理公使　珍田捨巳（印）

外務大臣子爵　青木周蔵殿

（附属書）

（翻訳）

蘭国議会関係文書

和蘭国第二議院ニ送リタル同国王ノ教書

諸卿

朕ハ茲ニ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ協約シタル国際争議平和処分規程ニ関スル約定ヲ批准スルノ法律案（同案ノ関係書類ハ同案ニ添附セリ）ニ対シ卿等ノ協賛ヲ需ム

同法律案ニ添附セル説明書ハ同案ノ採用ヲ至当トスル理由ノ全部ヲ包含ス

諸卿、朕ハ此機会ニ附シテ卿等ノ為メニ神ノ聖護ヲ祈ル

千九百年一月三十日海牙ニテ

「ウヰルヘルミナ」

法律案

天佑ニ依リ和蘭国女王ノ位ヲ踐メル朕「ウヰルヘルミナ」、現在及将来ノ有衆ニ宣示ス

千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ独逸、墺地利、洪牙利（以下平和会議参列諸国ヲ列挙ス）間ニ協約シタル国際争議平和処分規程ニ関スル約定ハ和蘭王国ニ金銭上ノ負担ヲ課スルモノナルコトヲ考量シ

憲法第五十九條第二項ニ顧ミ

枢密院ノ諮詢ヲ経国会ノ公議ニ附シタル後左ノ件ヲ命令ス

単行法

千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ独逸、墺地利、洪牙利（以下平和会議参列諸国ヲ列挙ス）間ニ協約シタル国際争議平和処分規程ニ関スル約定ハ之ヲ承認ス

同法律ハ官報ニ掲載シ我国務各大臣、各官庁、学校及官吏ヲシテ各々其範囲内ニ於テ同法ヲ確実ニ執行スベキコトヲ命ス

外務大臣署名

説明書

国際間ノ争議ハ決シテ暴力ノ威圧ヲ以テ解決スベキニアラズ、必ズヤ権義ノ正道ニ依リテ裁断スルヲ要ストノ観念ハ、古来幾多ノ哲学者、政治家輩ガ喜ンデ其ノ維持ニ努メタル理想ナリ、特ニ戦争ノ害毒最モ甚シクシテ、人道感覚ニ触ルヽコト愈々切ナルノ時ニ当リテハ、屢々此観念ヲ擁護スルノ叫ヲ高メタルノ事迹アリト雖モ、住々ニシテ障碍ニ遭ヒ、既往数世紀間ノ経過ニ徴スルニ此思想ヲ実行セントシタル幾多ノ計案モ其実単純ナル一種ノ理想ニ止マリ、未ダ嘗テ

他ノ意義ヲ帯有スルニ至ル能ハズ、千六百七年仏蘭西国王顕理第四世ガ宗教上ノ争闘ヲ終止スルノ目的ヲ以テ一ノ同盟ヲ組織シ欧洲文明諸国間ノ調和ヲ試ミントシタル考案ハ此類ノ計画中最モ重要ナルモノトス、同案ニ依レバ各国政府ハ三年ノ任期ヲ有スル委員ヲ派遣シテ一ノ国際委員会ヲ組織シ、欧洲ノ一大都会ヲ以テ其会場ト定メ、同委員会ヲシテ君主ト臣下トノ間ニ生ジタル紛争ヲ調停セシメントスルニ在リ、同案ハ未ダ其実行ニ着手スルニ及バズシテ止ミタリト雖モ、其余響ハ十七、十八両世紀ニ亘レル国際法専門家ノ著述中ニ波及シタルノ迹顕然蔽フベカラザルモノアリ、例ヘバ「グロシユス」ガ平戦條規ニ関スル有名ナル著書ニ於テ平和保持ノ方法ヲ講究スルニ当リ、同様ノ意見ヲ主張シ、耶蘇教諸国ノ委員ヨリ成ル会議ヲ興シテ、将来起ルコトアルベキ紛議ハ当事国以外ノ委員ヨリ成ル該会議ニ於テ之ヲ裁定スベシト唱道シタルガ如キ是ナリ（平戦條規第二巻第廿三章）

路易十四世ノ戦乱時期ニ当リ、「テレマック」ノ著者トシテ普ネク世間ニ知ラレタル「フェネロン」ハ君主ノ間ニ生ジタル争議ニ関シテ居中調停ノ原則ノ実行ヲ開始センコトヲ希望スルノ議ヲ流暢ニ陳弁シタリ、又千七百十三年ニ於テ僧正「サン・ピエール」ハ顕理四世ノ紀念ニ捧ゲンガ為メ、且ツ恒久ノ平和ヲ保障スルノ目的ヲ以テ列国間ニ親密ナル一聯合ヲ組織センコトヲ企テ其完然ナル計画ヲ提議セリ、氏ノ計画ニ依レバ、各国代表者ヨリ成ル元老院ヲ設ケ欧洲ノ一都府ヲ以テ其開会地ト定メ、同都府ハ元老院所在地タルノ故ヲ以テ之ヲ中立地ト為シ、其施設ハ元老院ノ管轄ニ属セシムベシト云フニ在リ、且ツ「サン・ピエール」ハユートレヒトガ従来平和会議ノ開会地タリシ因縁アルヲ以テ同市ヲ選択セントノ希望ヲ有セリ、降テ十八世紀ノ末葉ニ至リ、「ベンサム」「カント」等同様ノ計画ヲ唱道シタリト雖モ当時恰モ革命擾乱ノ際ニ属シ斯ル提議ニ対シテハ君主モ政府モ何等ノ賛助ヲ与フルコトナカリキ

維納会議ガ奈破烈翁戦争ノ為メニ甚シク錯乱シタル欧洲政治上ノ均衡ヲ再設シタルノ後、欧洲列国ハ何レモ恒久ノ平和ヲ維持スルニ尽瘁シ当時ノ人ヲシテ欧洲ノ戦闘時代ハ将ニ終リヲ告ケントスルノ感覚ヲ抱カシメタリト雖モ現ニ今日尚平和手段ニ依リテ容易ニ裁理スルコト能ハザル幾多困難ナル問題ノ目前ニ横ハルアリ（誠ニ土耳其、埃及ニ関スル一問題ヲ考フルモ恐クハ思半ニ過キン）加フルニ現世紀ノ中葉ニ於ケルクリミヤ戦争ハ平和擁護派ノ企図ヲシテ空シク水泡ニ帰セシメタルノミナラズ同戦争ニ次キ墺仏戦争、日耳曼ノ二強国ト丁抹トノ戦争、普墺戦争及千八百七十年ヨリノ七十一年ニ亘ル普仏戦争等続発セリ

普仏戦争後輿論ハ再ビ憤興シ、世人ハ更ニ戦争予防ノ途ヲ講究スルニ努ム、千八百七十三年ノ設立ニ係ル国際法協会ハ文明諸国ニ於ケル国際法専門家ノ団体ニシテ千八百七十五年海牙ニ於テ開会ノ際、同協会ハ国際仲裁々判ニ関スル規約ヲ提出セリ、之ト同時ニ各国議院ニ於テハ将来起ルコトアルベキ国際争議ヲ仲裁々判ニ依リテ終結スベシトノ原則ヲ弁護スル者輩出セリ、即チ英国下院ニ於ケル「リチャード」氏、伊国代議院ニ於ケル「マンチニー」氏、和蘭国第二議院ニ於ケル「パン・エック」氏及「ブレジュス」氏（千八百七十三年十月十九日）ノ如キ是ナリ

加フルニ仲裁ノ方法ニ依リテ戦争ヲ防止シ得タルノ実例ヲ出シ以テ同方法ノ実行ニ適スルト同時ニ、有効ナル一制度タルコトヲ実証セルガ為メ平和唱導者ハ益々勧誘ノ地歩ヲ進ムルニ至レリ、曾テ大不列顛国ト北米合衆国トノ間ニ生ジタル重大ナル難件モ（半世紀以前ナラシメバ血戦ヲ開キタルコトナラン）ジエネーバニ開会セル国際仲裁委員会ニ依リ千八百七十二年ニ於テ平和ノ終局ヲ見タリ、同仲裁々判ハ之ヲ国際法上ヨリ観察スルトキハ現世紀ニ於ケル最モ重要ナル事件ノ一ニシテ実際上仲裁々判ニ依頼スルノ方向ニ輿論ヲ傾ケタルノ効亦最モ偉大ナリトス、其後世界各国ノ間ニ生シタル多少重要ナル争議ニシテ仲裁々判ニ依リ解決サレタルモノ一ニシテ足ラズ、和蘭ニ於テハ千八百八十一年ニ於ケルハイチトノ争議、千八百九十一年ニ於ケル仏国トノ争議及千八百九十五年ニ於ケル英国トノ争議ニ付等シク仲裁ノ方法ニ依頼シタリ

仲裁々判ノ原則ノ効果漸ク各国政治家ノ承認スル所トナルニ及ビ国際間ノ條約又ハ約束ノ適用ニ関シテ起ルコトアルベキ争議ハ之ヲ仲裁々判ニ依リテ解決スベシトノ條項ヲ其條約又ハ約束中ニ挿入スルノ慣行追々其歩ヲ進メ、更ニ一転シテ一般仲裁條約ヲ締結シ、両国間ニ生ズルコトアルベキ一切ノ争議ヲ挙ゲテ仲裁々判ニ附センコトヲ約束スル者アルニ至レリ、例ヘバ和蘭、葡萄牙両国間ニハ寛大ナル仲裁條件ヲ具備スル條約ノ既ニ成立セルモノ一ニシテ足ラズ、特ニ昨年伊国ト亜爾然丁共和国トノ間ニ締結シタル條約ノ如キハ斯ル一般仲裁條約ノ好模範ト評スベキナリ、又英米両国ハ千八百九十七年同様ノ條約ヲ締結シタリ、尤モ米国上院ガ其承認ヲ拒ミタルガ為メニ実行ニ至ラザリシト

雖モ各国政府ヲシテ一切ノ争議ヲ解決スベキ普通ノ方法ハ仲裁々判ニ在ルコトヲ承認セシメ且ツ之ヲ肯諾セシメンガ為メニ充分ノ尽力ヲ用ヒザルベカラズトノ信念ハ爾来次第ニ其地歩ヲ占メ来レリ、而シテ千八百八十八年巴里ニ創設シタル国際国会議員会（ユニオン・インテルパールマンテール）ノ如キハ此観念ノ開設ニ著シク醸力シタルコト疑ヲ容レズ、同会ハ各国ノ国会議員ヲ以テ之ヲ組織シ、国際間ノ争議ハ須ラク仲裁々判ニ依リテ裁定スベシトノ原則ヲ発揮スルヲ以テ其目的トナスモノナルガ故ニ、仲裁々判主義ノ擁護者ハ茲ニ会同協商ノ集点ヲ得テ、文明世界ノ各代表会議ニ影響ヲ与フベキ機会ニ接シタリ、然リト雖モ此観念ヲ実際ニ応用シ、争議ノ生ジタル場合ニ於テ時機ヲ誤ルコトナク戦争ヲ防止セント欲セバ必ズ各国政府ノ協同行為ニ待タザルベカラズ、クリミヤ戦争ヲ終結スルノ目的ヲ以テ開会シタル千八百五十六年ノ巴里会議ノ如キハ蓋シ此方面ニ向テ一歩ヲ進メタルモノナリ、同会議ニ参列シタル英、仏、墺、普、露、サルジニヤ及土耳其ノ代表者ハ同会議ノ議定書中ニ挿加シタル宣言ヲ以テ、将来両国間ニ重大ナル不調和ヲ生ジタル場合ニ於テハ第三ノ和親国ノ周旋ヲ要請スベキ旨ヲ表明セリ、英国政府ハ千八百七十年普仏戦争開戦前ニ干渉ヲ試ミタルモ其ノ効ヲ奏セザリキ

国際会議ヲ開キテ戦争ヲ豫防スルノ方法ヲ講究シ、其ノ一方法トシテ戦闘手段ノ拡張ニ制限ヲ加ヘントノ提議ヲ初メテ議事日程ニ登載シタルノ名誉ハ実ニ露国皇帝「ニコラス」第二世ニ属ス

千八百九十八年十二月三十日附「ムラビエフ」伯第二回章ニ掲ケタル八ヶ條ノ提案中、最後ノ壱ヵ條ハ左ノ如ク記セリ

国民間ノ戦闘ヲ防止スルノ目的ヲ以テ、調停、仲介及任意ノ仲裁々判ヲ原則トシテ採用スルコト、右適用ノ方法ニ関スル妥協及ヒ其ノ一様ナル実行ノ手段ノ創定、

平和会議ノ開会スルヤ、同会議ハ其第三委員会ニ於テ専ラ右ノ要目ニ付調査ヲ遂ゲシメ、又同委員会ハ千八百九十九年五月廿六日ノ会議ニ於テ特別委員ヲ設ケ、先ヅ「調停及仲介（ボンオフィス・ノンプレジョン）」「国際審理委員」及「国際仲裁々判」ニ関スル露国政府ノ提案ニ付審査セシメ、且ツ「国際仲裁々判所」ニ関スル「サー・ジュリアン・ポンセフォート」氏ノ提議及同様ノ目的ヲ有スル露国ノ提議ニ付、審査ヲ遂ゲ必要ノ報告ヲ委員会ニ供出スベキコトヲ命ゼリ（茲ニ第三委員会委員ノ氏名ヲ掲ケ、同委員会議事ノ経過ヲ略叙ス）

右約定ノ最モ重要ナル決定ニ関シ下名（外務大臣）ハ左ノ諸点ニ付注意ヲ請ハントス

同約定第二篇ハ戦争ヲ防止スル第一ノ方法トシテ調停及仲介ヲ掲ゲタリ、国際法上両者ノ区別ヲ述ブレバ……第三国ガ両国間ノ争議ヲ穏便ニ解決セントスルノ目的ヲ以テ任意ニ紛争国ニ提議スルノ点ハ一ナリ……調停ノ場合ニ於テハ第三国ハ両争議国ニ対シ助言ヲ与フルニ止マリ、仲介ノ場合ニ於テハ両当事国ノ承諾ヲ経タル後一定ノ提議ヲ両関係国ニ供出スルニ在リ

第三條末項ノ規定ハ調停ノ申込ヲ躊躇セシムル疑懼心ヲ除去センコトヲ目的トスルモノニシテ頗ル重要ナリトス

第八條ハ仲介ニ関スル一定ノ形式ヲ定ム、是レ其実行上ニ偉大ナル利益ヲ与フルモノニシテ特別ノ注意ニ値ス

第三篇ハ戦争ヲ防止スル新方法ヲ定メ国際審査委員ノ制度ヲシテ茲ニ初メテ萬国ノ承認ヲ得セシメタルモノナリ、而シテ此種ノ委員会ト仲裁々判トハ互ニ区別スルコトヲ要ス、国際審査委員会ノ決定ハ当事国ヲ拘束セズ、当事国ハ斯ル決定ニ対シテハ自国ノ利益ニ適合スト思惟スル効果ヲ与フルノ完全ナル自由ヲ留保スルモノナリ、即チ国際審査委員会ノ要務ハ公平且ツ細密ニ事実ヲ審査スルニ在ル耳

第四篇ハ仲裁々判ヲ規定ス、初メ露国政府ハ或ル場合ニ於テハ仲裁々判ノ方法ニ依嘱スベキヤ否ヤヲ各国ノ自由選択ニ放任スルノ一般規定ヲ避ケ以テ一定ノ種類ノ争議ニ対シテハ仲裁々判ヲ義務的トナサンコトヲ提議シタルモ、同提案熟議ノ末右ノ点ニ関シ参同各国ノ一致ヲ得ルノ見込ナキコト判明シタルガ故ニ、仲裁々判ハ総テノ場合ニ於テ任意的トナリ了セリ、若シ僅少ナル例外ノ場合ヲ除ク外総テノ問題ニ関シ義務的仲裁條約ヲ締結シ得ベシト豫期シタル者アラバ、斯ル希望ヲ抱懐シタルノ士ハ右ノ決定ヲ悲ムベキノ事情ヲ有スルコト勿論ナリト雖モ、縦シ義務的制度トシテ仲裁々判ヲ採用シタリト仮定スルモ其仲裁々判ハ最モ危険少キ二三ノ場合ニ限リ之ヲ適用スルニ過ギザルベシ、果シテ然ラバ委員会ガ義務的ノ主義ニ対スル強硬ナル反対意見ヲ裁酌シタルノ処置ハ下名ノ意見ニ於テハ正当ナリト認ム、試ニ其理由ヲ略述センニ、任意的仲裁々判ナルガ故ニ参同諸国政府ノ多数ガ相一致シタル総テノ場合ハ将来之ヲ仲裁裁判ニ訴フルニ至ルベシト豫言シ得ベ

キノミナラズ、特別ナル二三ノ場合ニ限リテ義務的仲裁々判ノ主義ヲ採用スルトキハ或ハ仲裁々判ノ一般ノ実益ヲ傷害スルノ虞ナシトセズ、又任意的仲裁々判ヲ取ルモ限定義務的仲裁々判ノ原則ハ恐ラクハ実行上ニ其地歩ヲ進ムルニ至ルベシ、且又義務的仲裁々判ニ附スベキ二三ノ場合ヲ限定スルトキハ同約定ノ締結者ガ其以外ノ場合ヲ以テ仲裁々判ノ方法ニ依リテ解決スルニ不適当ノモノト認メタリトノ観念ー固ヨリ理由ナキ観念ナレドモーヲ世人ニ与フルノ憂アルヲ免カレズ

第四篇第二章ハ常置国際仲裁々判所ノ組織及権限ヲ規定ス、而シテ平和会議ガ全会一致ノ決議ヲ以テ海牙府ヲ国際事務局所在地ト指定シ、同事務局ヲ以テ常置国際裁判所書記局ノ用ニ供セントスルノ一事ハ既往数世紀以来平和條約ニ依リ欧洲列強間ノ戦争ヲ終止シタル成迹ヲ有スル我国ニ取リ無上ノ礼遇ト云ハザルベカラズ

第二十七條ニ定メタル原則ハ亦特種ノ注意ニ値ス、仲裁々判所創設ノ目的ハ此原則ニ依リテ輔翼セラルヽコト疑ヲ容レズ

仲裁々判手続ノ一般規定ヲ設ケタル第三章ニ付キテハ別ニ説明ノ必要ヲ見ズ、周到ノ注意ヲ加ヘテ制定シタル同章ノ完全ナル規定ハ争議国ニ向ヒテ至大ナル担保ヲ供スルト同時ニ各自ノ利益ヲ保護スルガ為メニ充分ナル機会ヲ与フ、只一ノ注意スベキ点ハ同規定ガ各方面ニ於ケル事情ヲ斟酌シタル上ニ仲裁々判ニ対シ再審ノ起リ得ベキ場合ヲ豫期シタル事是ナリ、再審ノ訴ハ両当事国ガ特ニ仲裁協諾（コンプロミ）ヲ以テ其権利ヲ留保シタル場合ニ限リ之ヲ許スモノトス、尚第五十五條ハ再審ヲ制限スル條件及形式ヲ規定シタリ

第五十六條ハ二ヵ国以上ノ間ニ締結セル條約ノ解釈ニ関スル争議ニ付頗ル有益ナル規定ヲ包含ス

平和会議ノ決議ニ依リ同会議参同諸国ハ十二月三十一日迄ニ（其日モ含ム）此條約ニ調印スルノ権利ヲ有シ、又其調印ハ千八百九十九年七月二十九日ヲ以テ之ヲ了シタルモノト看做スト同時ニ、第五十九條ヲ以テ右ノ権利ヲ行使セザル参同諸国ニ対シ他日同條約ニ加盟シ得ベキノ機会ヲ与ヘタリ

平和会議ニ参同セザル諸国ノ同條約ニ加盟スルコトヲ許スベキヤ否ヤノ点ニ関シテハ和協ニ至ラザリシガ故ニ第六十條ヲ以テ右等ノ諸国ハ後日ノ條約ニテ定ムベキ條件ニ従ヒ等シク同條約ニ加盟シ得ベキ旨ヲ規定セリ

外務大臣
「ダブルユー・エッチ・ド・ボーフォルト」

一八一　明治三十五年五月三十一日　蘭国駐劄三橋公使ヨリ小村外務大臣宛

在海牙府平和協会ノ催セル萬国平和会議第三周年記念会ノ景況報告之件

公信第三二号　七月十一日接受

本月十八日ハ去ル明治三十二年当府ニ於テ萬国平和会議開会ノ第三周年ニ相当スルヲ以テ当府有志者ノ設立ニ係ル平和協会ナルモノ右記念ノ為メ同日特ニ集会ヲ催フシ前国務大臣「ボーフォル」「ファン・ハウテン」「ロウエル」「カルネベック」「ボルゲシウス」等ノ諸氏招待ニ応シ之ニ参会セリ而テ前外務大臣「ボーフォル」氏ハ先ツ名誉座長トシテ開会ノ演説ヲ為シ萬国平和会議第三周年記念日ノ黙過セラレサルヲ喜ブ旨ヲ告ケ南阿戦争ニ関シ世間ニテハ該戦争ヲ防遏スルノ策ヲ採ラサリシヲ批難スルモノ多々アレドモ仮リニ英国政府カ開戦ヲナサヽリシモノトセハ英国人民ハ其内閣ヲ辞職セシメ尚一層過激ナル開戦主義ノ政府ヲ組織セシムルニ至リタルヘキハ必然ニシテ到底止ムヲ得サリシ次第ナリト述ヘ又婦人社会カ平和克服ノ為メ尠カラサル尽力ヲ為シタルヲ賞讃シ次ニ同会々長「ファンデル・フリエット」博士ハ常設仲裁々判所ノ設立ハ最モ幸福ナル出来事ニシテ世界各国政府及人民ノ権利ヲ明カニスルニ稗益スル所大ナリト述ヘ又前論者ト同様戦争ナルモノハ政府ノ創始スルモノニ非ス人民ヨリ誘起スルモノニシテ英国政府ノ如キ亦タ人民ニ迫ラレ開戦ニ及ヒタルモノナリ故英国女皇陛下ノ末後ヲ速メタルモ亦タ茲ニ原因スル所ナキニ非ス各国人民ハ各其ノ応分ノ君主及政府ヲ有ス独リ吾人ハ例外ニシテ蘭国人民ニハ分外ナル至仁至善ナル皇帝陛下アリト述ヘ続テ前内務大臣「ファン・ハウテン」氏ハ「萬国平和会議ノ事業ニ就キ失望スヘキ理由アリヤ」トノ演題ニテ平和條約成立以来露国ノ「フィンランド」ニ対スル過酷ナル待遇、英国ノ南阿戦争、二箇ノ某邦国カ厳正中立ヲ守ラサリシコト等平和ニ反対ナル事実ヲ見タリ是等ハ平和会議ノ開催セラレシトセラレザリシトニ拘ラス現出シタル事実ナルヘキモ平和会議開催ノ為メ吾人ヲシテ一層之ヲ咎ムルコト甚タ失望スルコト多キニ至ラシメタリ抑モ世界ノ平和ヲ得ントスルハ尚ホ成長緩慢ナル大樹ノ苗ヲ培養スルカ如シ一八九九年ノ平和会議ハ之カ植付ヲ為シタルモノニシテ之ヲ生長セシメ大樹トナラシムルニハ列国挙テ之カ擁護ニ尽力セサル可ラス英国ノ如キ南阿戦争ノ為メ国債ヲ増加シ国勢ヲ減殺シタルコト尠カラス平和必要ナリトノ原則ハ世人益々之ヲ認識スルニ至リタルカ如シ要スルニ平和会議開催以

来生起シタル平和ニ反対ノ出来事ハ失望ヲ与ヘタルモ平和ノ原則ハ日ニ月ニ認識セラルヽノ傾向アリトノ主旨ヲ演説シ最後ニ赤十字社員「ベイネル」令嬢ハ南阿戦争ニ於テ実地目撃シタル悲惨ノ状態ヲ詳述シ該地ニ於ケル英兵ハ勇気沮喪ヲ極メ現ニ同令嬢ニ向テ「吾人ハ此戦争ニ倦メリ元来開始スヘキ戦争ニハ非サリシ」ト嘆息セリト述ヘリ而シテ当日同協会ヨリ露国皇帝陛下ヘ「平和協会ハ萬国平和会議第三周年記念ノ為メ特ニ集会シ茲ニ謹ンテ陛下ニ向テ陛下カ創始セラレタル事業ノ発達ヲ熱望スルノ誠意ヲ呈ス」トノ意味ノ電信ヲ発送シ又当国皇帝陛下ヘハ「平和協会ハ萬国平和会議開会記念日ヲ祝スル為メ特ニ集会シ茲ニ陛下ノ御回復ニ対シ深厚ナル祝意ヲ表ス」ル旨ヲ電奏シ夫ヨリ音楽合奏等ノ余興アリテ後散会致候

該平和協会ナル者ハ純然タル蘭国人ノ私立団体ニシテ現政府当局者ハ之ニ関係ヲ有セス殊ニ当日ハ現内閣若クハ親交国ニ対シ攻撃ノ意ヲ表スル演説ヲ為ス者アルモ計リ難シトノ懸念有之候為メニ政府当局者ハ勿論外交官等之ニ出席シタル者一人モ無之候得共右集会ノ景況概略御参考迄ニ茲ニ及具報候　敬具

一八三　明治三十六年五月八日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

「サルヴァドル」国及韓国カ陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約外一件ニ加盟ノ件通知越ノ件

（訳　文）

第二八九号

外務大臣男爵閣下

和蘭国公使　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳者一八九九年海牙ニ於テ夫々調印相成候陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約第四條並一八六四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約（赤十字條約）ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約第十三條ニ遵ヒ本国政府ハ「サルヴァドル」国及韓国カ豫メ「ジェネヴァ」條約ヲ承認シタル後右二條約ニ加盟シタルコトヲ帝国政府ニ通知スヘキ旨本使ニ訓令致来候

右訓令ヲ奏行スルニ方リ本使ハ茲ニ我至尊ナル皇帝陛下ノ政府カ前記二ヶ国ニ対シ其ノ加盟ヲ領承スルニ当リ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ノ加盟ニ就キテハ該加盟ハ左ニ掲クル同條約第十條ニ及ハサル旨ノ明示ノ保留ヲ以テ之ヲ承認シタル旨注意アリタル趣ヲモ附言致置候

第十條　中立国地方官庁ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタ

明治三十五年五月三十一日

在蘭　特命全権公使　三橋信方（印）

外務大臣男爵　小村寿太郎殿

一八二　明治三十六年五月八日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

韓国カ国際紛争平和的処理條約ニ加盟ヲ希望スル旨通知越ノ件

（訳　文）

第二八八号

外務大臣　小村男爵閣下

和蘭国公使　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳者韓国ハ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印ノ国際紛争平和的処理條約ニ加盟ノ儀許容アリタシトノ希望ヲ和蘭国政府ニ通知シタル趣同政府ノ訓令ニ因リ茲ニ帝国政府ニ及御通牒候

右御通報旁本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九〇三年五月八日　東京ニ於テ

註　尚第二九〇号ヲ以テ右同様「グッテマラ」共和国ノ加盟申出ノ通牒アリ以上申出了承ノ旨五月十八日送第七号ヲ以テ回答アリ

ル難船者傷者又ハ病者ハ中立国ト交戦国ノ間ニ反対ノ取極ナキ限リハ再ヒ戦闘ニ従事スルコト能ハサラシムル為ノ右中立国ニ於テ之ヲ抑留スヘシ医療及留置ノ費用ハ其ノ難船者傷者又ハ病者ノ所属国ニ於テ之ヲ負担スヘシ

記名各国間協議ノ結果該各国カ寄托シタル批准書ハ総テ右第十條ヲ批准ノ範囲ヨリ削除シタルコトヲ明示シタル義ニ有之候然ルニ加盟ナルモノハ批准ヲ経タル條約ニ対スルノ外為シ能ハサル所ナレハ其ノ前記第十條ニ及ハサルコト言ヲ俟タサル儀ニ有之候

茲ニ本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九〇三年五月八日　東京ニ於テ

註　右申出了承ノ旨五月廿七日送第八号ヲ以テ回答アリ

一八四　明治三十六年五月二十日　蘭国駐劄三橋公使ヨリ小村外務大臣宛

在海牙府平和協会ノ催セル萬国平和会議第四周年記念会ノ景況報告之件

公信第二九号

去ル五月十八日ハ萬国平和会議開会ノ第四週年ニ相当スルヲ以テ当府平和協会ハ例年ノ通リ右記念ノ為メ特ニ集

会ヲ催シ前国務大臣「ファン・ハウテン」「ボルゲンシアス」「ロエル」「カルネベック」第一議院議員「ハフェラース」海牙裁判所長「ホエンス」第二議院議員「ベイラント」等ノ諸氏ヲ始メ約四百名参会シ座長「デ・ビントー」氏ハ先ツ開会ノ辞トシテ当日参集セル諸員ヲ歓迎スルノ意ヲ述ヘ次ニ皇帝陛下ニ敬意ヲ表スル為メ同協会ノ名ヲ以テ電信ヲ発センコト並ニ彼ノ米国人「カルネギー」氏カ常設仲裁々判所ノ設置費トシテ巨額ノ資金ヲ寄贈セルニ対シ同協会ノ深厚ナル謝辞ヲ電送センコトヲ提議シテ衆員ノ同意ヲ得続テ現任外務大臣並ニ陸軍大臣ハ平和協会ノ主義目的ニ同情ヲ表スルモ本日ノ記念会ニ出席スル能ハサルヲ遺憾トスル旨ノ書翰ヲ送リ来リタル旨及羅馬、「ニューオーレアンス」「フィラデルフィア」等ニ於ケル同協会ヨリ数多ノ祝電ニ接シタル旨ヲ報告セリ次ニ同協会ノ名誉会頭タル前内務大臣「ローマン」氏ハ先ツ記念会開会ニ関スル祝意ヲ述ヘタル後萬国平和会議ハ未タ全ク吾人ノ希望セル如キ効果ヲ収メ得スト雖モ之ニ依リテ常設仲裁々判所ノ創設ヲ見タルハ最モ慶賀スヘキコトナリ又吾人ノ伝承スルトコロニ依レハ将来蘭仏両国間ニ於ケル紛議ハ常設仲裁々判所ノ裁決ニ附スヘシトノ議目下彼我両政府間ニ交渉中ナリト云フヴァ」條約ニ加盟シタル秘露共和国ハ今般千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印セラレタル陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約及千八百六十四年八月二十二日ノ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ加盟シタルコトヲ帝国政府ニ可及御通知旨右甲條約第四條及乙條約第十三條ニ基キ和蘭国政府ヨリ本使ニ訓令有之候

和蘭国政府ハ右加盟ノ手続終了ノ義ヲ秘露国政府ヘ通知スルト同時ニ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ加盟スルコトハ左記ノ第十條ニハ其効力ヲ及ホサスト云フ保留ヲ以テ承認セラレタル旨注意致候

中立国地方官ノ承諾ヲ得テ其ノ一港ニ上陸シタル難船者負傷者又ハ病者ハ中立国ト交戦国トノ間ニ反対ノ取極ナキ限リハ再ヒ戦闘ニ従事スルコト能ハサラシムル為ニ抑留スヘシ

医療及拘置ノ費用ハ難船者、負傷者又ハ病者ノ所属国ニ於テ之ヲ負担スヘシ

最モ締盟列国協定ノ結果列国ヨリ提出セラレタル批准書ハ右十條ニ批准ヲ与ヘサルコトヲ證明スルモノニ有之候間秘露国ノ加盟ハ批准ヲ経タル條約ニ関スル義ニシテ右十條ニ其ノ効力ヲ及ボスヘカラサルコトハ勿論ノコトニ有之候

若シ果シテ事実ナルニ於テハ是レ列国ニ対シ良好ナル先例ヲ作成スルモノニ外ナラス列国ハ宜シク開戦ヲ宣告スルニ先チテ先ツ其禍源ヲ正理公道ノ裁決ニ附スヘキモノナリトノ旨趣ヲ縷述シ次ニ「リューワルデン」平和協会支部長「ブルーヴァル」氏ハ「愛国心ニ付テ」又「ロッテルダム」高等学校教授「リン タム」博士ハ「平和ノ理想ト歴史ノ教授」ト題シ各一場ノ演説ヲ試ミ以テ当日ノ集会ヲ了リ候

右及具報候　敬　具

明治卅六年五月廿日

在蘭　特命全権公使　三橋信方（印）

外務大臣男爵　小村寿太郎殿

一八五　明治三十七年四月七日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

秘露国平和條約加盟通知ノ件

（訳　文）

第三三〇号

スウエルツ・ド・ランダス

外務大臣　小村男爵閣下

以書翰致啓上候陳ハ千八百八十年四月二十二日ニ「ジェネヴァ」條約ニ加盟シタル秘露共和国ハ今般千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印セラレタル陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約及千八百六十四年八月二十二日ノ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ加盟シタルコトヲ帝国政府ニ可及御通知旨右甲條約第四條及乙條約第十三條ニ基キ和蘭国政府ヨリ本使ニ訓令有之候

右訓令ニ依リ及御通知候本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四年四月七日

一八六　明治三十七年四月七日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

「ハイチ」ノ平和條約加盟希望通知ノ件

第三三一号

スウェルツ・ド・ランダス

外務大臣　小村男爵閣下

以書翰致啓上候陳ハ「ハイチ」共和国政府ハ海牙平和会議ノ際千八百九十九年七月二十九日ニ締結シタル国際紛争平和的処理條約ニ加盟希望ノ旨和蘭国政府ヘ通知シタル趣ニ有之候右本国政府ノ訓令ニ依リ可御通知候本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四年四月七日

一八七　明治三七年四月二日　小村外務大臣ヨリ蘭国公使宛

秘露国及「ハイチ」国ノ平和條約加盟及加盟希望ノ通知了承ノ件

明治卅七年四月十二日発遣

送第七号

在本邦　和蘭国公使　　小村大臣

以書翰致啓上候陳者秘露共和国今般千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印セラレタル陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約並ニ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約（同條約第十條ヲ除ク）ニ加盟之件並ニ「ハイチ」共和国同年同月同日同所ニ於テ調印セラレタル国際紛争平和的処理條約ニ加盟希望ノ旨貴国政府ニ申入レノ件ニ関シ本月七日附第三百三十号及第三百三十一号貴信ヲ以テ御通知之趣敬承致候此段回答旁本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

一八八　明治三七年五月七日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

国際紛争平和的処理條約加盟希望ノ処置ニ関シ協商ノ件

附属書　四月十四日付蘭国外務大臣回章訳

国際紛争平和的処理條約記名国以外ノ邦国加盟ニ関シ協商方ニ関スル件

（訳　文）

第四七二号

外務大臣　小村男爵閣下　　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳ハ千八百九十九年七月二十九日ノ国際紛争平和的処理條約ニ加盟協商ノ件ニ付和蘭国外務大臣ヨリ本使ニ宛テタル別紙回文写一通訓令ニ依リ及御送候間右回文中ニ記載有之候提議ニ対スル帝国政府ノ御意向ヲ和蘭国政府ヘ御通知相成候様希望致シ候本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四年五月十七日

（附属書）

四月十四日付蘭国外務大臣回章訳

国際紛争平和的処理條約記名国以外ノ邦国加盟ニ関シ協商方ニ関スル件

第三二二六号

在東京和蘭国皇帝陛下ノ特命全権公使　　男爵　メルヴィル・ド・リンデン

男爵　スウェルツ・ド・ランダス・ウィーボルフ貴下

以書翰致啓上候陳ハ平和会議ニ賛同セサリシ諸国中ノ数ヶ国ヨリ国際紛争平和的処理條約ニ加盟希望ノ旨和蘭国政府ニ通知有之候

右條約第六十條ニ「萬国平和会議ニ賛同セサリシ諸国カ本條約ニ加盟シ得ヘキ條件ハ他日締盟国間ノ協商ニ依リテ之ヲ定ム」ト有之候ニ付キ右協商ノ成立セサル間ハ前記ノ希望ハ何等効力ヲ生スヘキモノニハ無之候ヘトモ和蘭国政府ハ之ヲ各締盟国ニ通知スルノ義務アルモノト思考致候

右之次第ニ付露国政府ヨリ右ノ規定ニ依リテ定メタル協商ヲ成立セシムルノ目的ヲ以テ締盟国ニ照会スヘキコトヲ和蘭国政府ニ提議相成候

和蘭国政府ハ到ル処同情ヲ以テ迎ヘラルヘキ露国政府ノ意見ニ同意ヲ表シ候ニ付左記ノ提議ヲ千八百九十九年七月二十九日ノ條約ヲ批准セル諸国ノ明裁ニ附スルノ希望ヲ有シ候

第一　加盟ノ條件

右條件ヲ左ノ如ク規定スルヲ得ヘシ

萬国平和会議ニ賛同セサリシ諸国ハ書面ヲ以テ加盟シタキ旨和蘭国政府ニ通告スルニ於テハ千八百九十九年七月二十九日ノ国際紛争平和的処理條約ニ加盟スルヲ得ヘシ

和蘭国政府ヨリ之ヲ他ノ総テノ締盟国ニ通知スヘシ

右加盟ハ各締盟国カ前項ノ通知ヲ受領シタルコトヲ和蘭国政府ヘ報知シタル旨ヲ同国政府ヨリ新加盟国及各締盟国ニ通告シタル日以降ニアラサレハ其ノ効力ヲ生セサルヘシ

右ノ書式ニ依レバ加盟セント欲スル一国ハ夫レカ為メ正式ノ請求ヲ為スノ必要ナカルヘク又若シ締盟国中ノ一国カ他国ノ加盟ニ付キ異議ヲ有スルトキハ加盟通告ニ対スル其ノ受領書ノ発送ヲ無期ニ遷延セシムルヲ以テ足ルヘシ故ニ該国ハ加盟セント欲スル国ニ対シ不友誼的ナル性質ヲ有スル正式ノ拒絶ヲ為スコトナクシテ其加盟ノ効力ヲ生セシムルコトヲ妨クルヲ得ベシ

第二　設定スヘキ協商ノ形式

萬国平和会議ハ原則上既ニ本件ニ関スル協商ノ精神ヲ確認シタルニ依リ更ニ会議ヲ開キテ右協商ノ條項ヲ制定ス

ルノ必要ナカルヘシ故ニ最現況ニ適スル方法ハ公文ノ交換ヲ以テ前記第六十條ニ豫見シアル協商ヲ実行スルニアルカ如シ

右公文ノ交換ハ一方ハ本公信他ノ一方ハ露国ト協議ヲ経テ定メ本公信中ニ記載セル提議ニ対スル回答ヲ以テ之ヲ組成スルモノトナスヲ得ヘシ

第三　協商成立ヲ證明スル行為及本規約ノ実行日附

右證明ノ為ニハ協商ノ成立シタルコトヲ掲ケタル公文ヲ和蘭国政府ヨリ締盟国ニ発送スルヲ以テ足レリトシ規約実行ノ日ハ右公文ノ日附ヲ以テスヘシ

本信ノ写ヲ貴下駐劄国ノ政府ニ進達シ前記提議ニ関スル同政府ノ意見ヲ和蘭国政府ニ通知セラルヽ様御申込相成度候

右御依頼旁本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百四年四月十四日海牙ニ於テ

一八九　明治三十七年五月二十四日　蘭国駐劄三橋公使ヨリ小村外務大臣宛

在海牙府平和協会ノ催セル萬国平和会議第五周年記念会ノ景況報告ノ件

公信第四七号　　六月廿八日接受

本月十八日ハ萬国平和会議開会ノ第五週年ニ相当スルヲ以テ蘭国平和協会ハ例年ノ通リ右記念ノ為メ集会ヲ催フセリ、当日来会スルモノ前国務大臣「ボルゲシアス」「サボリン、ローマン」陸軍中将「コール」其他知名ノ士女無慮二百名ニシテ目下開会中ノ国際私法上ノ事項ニ関スル萬国会議ニ出席ノ列国政府委員モ之ニ参会セリ、午後八時半該協会海牙支部長エム、デ、ピントー博士ハ座長トシテ先ツ開会ノ祝辞ヲ述ヘ当日参集セル諸員ヲ歓迎シ就中其国際法ニ関スル著述ト事業ニ於テ世界ノ平和ニ多大ノ関係ヲ有スル白国「ブラッセル」大学ノ国際法教授「アンリー、ラフォンテーン」博士カ態々出席ノ為メ来海セシヲ感謝シ又目下国際私法上ノ事項ニ関スル萬国会議開会中ナル旨ヲ述ヘ次テ蘭国皇帝陛下ニ敬意ヲ表スル為メ同協会ノ名ヲ以テ電信ヲ発センコトヲ提議シ直チニ発送シタルニ数刻ニシテ皇帝陛下ハ之ヲ嘉納アラセラレタル旨侍従武官ヨリ返電アリ而シテ後当国著名ノ楽師ノ奏楽アリ、夫ヨリ「ラフォンテーン」博士ハ「人種ノ嫉悪」ト題シテ別紙仏文摘訳ノ如キ演説ヲ為シ了リテ再ヒ音楽合奏唱歌等ノ余興アリ以テ本日ノ集会ヲ終リ候右及具報候　敬具

明治三十七年五月廿四日

在蘭　特命全権公使　三橋信方（印）

外務大臣男爵　小村寿太郎殿

一九〇　明治三十七年五月二十七日　小村外務大臣ヨリ和蘭国公使宛

国際紛争平和的処理條約記名国以外ノ邦国加盟ニ関スル協商方ニ賛同ノ旨件

明治三十七年五月廿七日発遣

送第十号

本邦駐劄

和蘭公使　　小村大臣

以書翰致啓上候陳者萬国平和会議ニ賛同セサリシ邦国カ国際紛争平和的処理條約ニ加盟ノ件ニ関シ該條約第六十條ニ豫見相成居候協商設定方ノ義ニ関シ本月十七日貴翰ヲ以テ貴国外務大臣閣下ノ廻状写御差越ノ上帝国政府ノ意見御問合ノ趣致敬承候貴国政府ノ提議ニ対シテハ上記條約ノ各記名国ニ於テ同意ナルニ於テハ帝国政府ニ於テモ何等異存無之旨茲ニ声明致候ハ本大臣ノ欣幸トスル処ニ有之候此段回答旁本大臣ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九一　明治三十七年八月二十三日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

国際紛争平和処理條約加盟希望ニ対スル処理協商ニ関スル件

（訳　文）

第六六九号

外務大臣　小村男爵閣下　　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳ハ一八九九年七月二十九日ノ国際紛争平和的処理條約第六十條ニ豫記シアル協商ヲ為スノ目的ヲ以テ和蘭国政府ヨリ発シタル提議ニ関シ去ル五月廿七日附第十号貴翰ヲ以テ御申越相成候帝国政府ノ御意見ハ早速本国外務大臣ヘ及通牒置候処和蘭国政府ハ豫想セサリシ困難ヲ生シタル為メ前記協商ニ関スル提議ハ其儘ニテハ到底目的ヲ達スルコト能ハサルモノト認メ候ニ付好マシカラサル先例ヲ残ササランカ為メ右提議ハ他日修正ヲ加ヘテ更ニ之ヲ提出スルコトヽシ一ト先之ヲ撤回スルコトニ決定相成候趣帝国政府ヘ可及御通知旨本使ニ訓令有之候尚茲ニ申添度ハ前記ノ提議ハ露国政府ノ承諾ヲ得タル義ニ付右撤回ニ関シ同国政府ノ意見問合セ候処和蘭国政府ニ於テ為サント欲スル処置ニ対シ毫モ異議無キ旨本国外務大臣ヘ回答アリタル

趣ニ有之和蘭国政府ニ於テ再ヒ提議ヲ為ストキハ先ツ露国政府ト協議ヲ遂クル筈ニ有之候右御通牒旁本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九〇四年八月廿三日　軽井沢ニ於テ

註　右申出ニ対シ了承ノ旨八月卅一日送第一五号ヲ以テ回答アリ

一九二　明治三十八年一月二日　蘭国公使ヨリ小村外務大臣宛

萬国平和会議決議條約ニ対スル清国批准書寄托通知ノ件

（訳　文）

第四号

外務大臣　小村男爵閣下　　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳ハ清国皇帝陛下ハ平和会議ノ際一八九九年七月二十九日ニ調印セラレタル国際紛争平和的処理條約一八六四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約及三個ノ宣言書ニ対スル批准書ヲ一九〇四年十一月二十一日和蘭国政府ニ寄托セシメラレタル旨本国政府ノ訓令ニ依リ及御通知候清国モ亦既ニ批准書ノ寄托ヲ終了シタル諸国ノ例ニ随ヒ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦国ノ注意ヲ惹起スルノ義務アルモノト和蘭国政府ニ於テ思考致候日本国モ亦右批准国ノ内ニ数ヘラレ候ニ付本国政府ノ名ヲ以テ右ニ関シ閣下ノ御注意ヲ促カスノ栄ヲ有シ候本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九〇五年十月七日

註　右了承ノ旨十月廿日送第二三号ヲ以テ回答アリ

一九四　明治四十年九月七日　蘭国臨時代理大使ヨリ林外務大臣宛

土耳其国ノ平和條約批准ニ関スル件

（訳　文）

第七四三号

外務大臣　林伯爵閣下　　レオン・ファン・ド・ポルデル

以書翰致啓上候陳ハ土耳其国ハ第一回平和会議ノ際千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ調印セラレタル諸條約及宣言書ヲ批准シタル旨本国政府ノ命ニ依リ茲ニ及御通知候

右批准書ハ去ル六月十二日和蘭国外務省ヘ寄託相成候ニ付右寄託ヲ證明スル別紙保管證書ノ認證謄本一通及御転送候

ニ応用スル條約第十條ハ批准中ニ包含セシメス且清国ハ一九〇四年六月二十九日ヨリ右「ジェネヴァ」條約ニ加盟シタル義ニ付此段申添候本使ハ茲ニ右五通ノ批准書寄托調書認證謄本五通御送付旁々閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

一九〇五年一月二日　東京ニ於テ

註　右了承ノ旨一月十三日送第三号ヲ以テ回答アリ

一九三　明治三十八年十月七日　蘭国公使ヨリ桂外務大臣宛

気球上ヨリ爆裂物投下禁止ニ関スル宣言ノ批准効力期間終了ノ旨通告ノ件

（訳　文）

第八八六号

外務大臣　桂伯爵閣下　　スウェルツ・ド・ランダス

以書翰致啓上候陳者海牙平和会議ノ際ニ記名セラレ且之ニ依リテ締盟国カ軽気球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル他ノ方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルヲ禁止スルコトヲ承諾セラレタル宣言書ニハ特ニ五箇年ノ期間ニ対シテノミ右承諾ヲ与ヘラレタルモノト記載有之候処右宣言書批准ノ第一着ハ一九〇〇年九月四日和蘭国政府ニ保管相成候間前記ノ條款アルコトニ付右宣言書ヲ批准セラレタル諸締盟「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ関シテハ土耳其国ハ千八百九十九年六月十三日第一副委員会ニ於テ同国委員ノ為シタル左記ノ如キ宣言ヲ保留シテ其ノ批准ヲ為シタルコトヲ御注意致置候

土耳其国委員ヌーレー・ベーハ土耳其国軍艦カ常ニ赤十字ヲ「ジェネヴァ」條約ノ記章トシテ尊重シタルコトヲ宣言シ並ニ相互主義ニ基キ赤半月モ亦尊重ヲ受ケンコトヲ希望シ該希望ノ表彰ヲ認メラレンコトヲ請求ス

右ノ保留ニ関シ和蘭国政府ハ「ジェネヴァ」條約ヲ以テ定メタル白地ニ赤十字ノ旗ヲ以テ病院船ノ標識トナスベシト「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニ規定シアリ而シテ右「ジェネヴァ」條約ハ即チ土耳其国ノ承諾シタルモノナルコト右ノ保留ヲ以テ海戦條約ノ批准ヲ土耳其国ニ許シテ他ノ記章即チ赤半月ヲ採用スルハ條約ノ規定ニ違反ナルコト及右ノ保留ハ到底承認シ難キモノナルコトヲ土耳其国政府ニ注意シタル由ニ有之候又千九百六年七月六日「ジェネヴァ」改正條約ニ調印ノ際波斯国カ同様ナル保留ヲ為シ他ノ記章（獅子及太陽）ヲ以テ赤十字ニ代ユルノ希望ヲ表彰セシカ瑞西国政府ハ今回ノ和蘭国政府ト同一ナル

手続ヲ為シタル趣併セテ本国外務大臣ヨリ申越候右御通知旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百七年九月十七日　東京ニ於テ

註　附属書省略、尚右了承ノ旨十月四日送

第四〇号ヲ以テ回答アリ

一九五　明治四年十月二七日　蘭国公使ヨリ林外務大臣宛

各国加盟通知ノ件

附属書　一八九九年七月二十九日平和会議三條約三宣言加盟一覧表

（訳　文）

第九六七号

外務大臣　林伯爵閣下　　ラウドン

以書翰致啓上候陳ハ去ル九月十七日当公使館公文第七四七号ヲ以テ謄本一通及御送付置候六月十四日海牙ニ於テ調印セラレタル議定書ノ結果トシテ左記ノ諸国ハ千八百九十九年七月二十九日海牙ニ於テ締結之国際紛争平和的処理條約ニ加盟相成候間此段本国政府之命ニ依リ五月十七日附第三五九号書翰ニ関シテ茲ニ及御通知候

アルゼンタイン	ボリビア
伯剌西爾	智利
コロンビア	玖馬
ドミニカン共和国	エクワトール
グッテマラ	ハイチ
ニカラガ	パナマ
パラゲイ	秘露
サルウァドル	ウルゲー
ヴェネツェラ	

右諸国ノ内左記ノ諸国ハ尚ホ千八百九十九年七月二十九日締結ノ他ノ海牙條約即チ陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約及千八百六十四年八月二十二日「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約ニモ加盟相成候

アルゼンタイン	智利
玖馬	ドミニカン共和国
エクワトール	ハイチ
ニカラガ	パナマ
パラゲイ	

和蘭国政府ハ右ノ諸国ニ二個ノ條約ニ加盟承認ヲ通知スルト同時ニ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ応用スル條約第十條ニ関シテハ本年五月十三日附第三三七号書翰ヲ以テ閣下ニ御報知致候通リ「プロトコール」局四月五日附回章第五〇六八号ニ記載セル保留アルコトヲ右諸国ニ通告致シタル趣ニ有之候

清国及瑞西国カ陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約ニ加盟シタルコト並ニ大不列顛国ハ千八百九十九年ノ第二及第三宣言書ニ葡萄牙国ハ第三ノ宣言書ニノミ加盟シタルコトヲ茲ニ及御通知候

又諾威国及瑞典国ハ別紙批准書保管證書ノ認證謄本ニテ御了解ノ通リ今般陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約ヲ批准相成候間此段併セテ及御通知候

千八百九十九年ノ諸條約及諸宣言書ヲ批准シタル諸国並ニ之ニ加盟シタル諸国ニ関シ和蘭国外務省ニ於テ調製シタル一覧表一部茲ニ添付致候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百七年十月二十七日　東京ニ於テ

註　加盟一覧表以外ノ附属書ハ之ヲ省略セリ

（附属書）

第一回平和会議ニ於テ一八九九年七月二十九日調印ノ平和会議三條約三宣言加盟一覧表

海牙　一九〇七年九月

一、国際紛争平和的処理條約	二、陸戦法規慣例ニ関スル條約	三、一八六四年八月二十二日ノ「ジェネヴァ」條約ノ原則ヲ海戦ニ利用スル條約（第十條ハ批准並ニ加盟ヨリ除外サル）	四ノ一、軽気球等ヨリ投射物爆裂物投下禁止ノ宣言（一九〇五年九月四日以降廃止）
四ノ二、毒質瓦斯散布ヲ目的トスル投射物使用禁止ノ宣言	四ノ三、人体ニ容易ニ開展シ又ハ扁平トナルヘキ弾丸使用禁止ノ宣言		

独乙国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
亜爾然丁国	一九〇七年六月十五日	一九〇七年六月七日	一九〇七年六月七日	一九〇七年六月七日	

墺地利洪牙利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
白耳義国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
ボリビー国	一九〇七年六月五日	一九〇七年二月七日	一九〇七年二月七日	一九〇七年二月七日
伯剌西国	一九〇七年六月五日	一九〇七年二月二十五日	一九〇七年二月二十五日	一九〇七年二月二十五日
勃爾牙利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
智利国	一九〇七年六月五日	一九〇七年六月十九日	一九〇七年六月十九日	一九〇七年六月十九日
清国	一九〇四年十一月二十一日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年十一月二十一日	一九〇四年十一月二十一日
コロンビー国	一九〇七年六月五日	一九〇七年一月三十日	一九〇七年一月三十日	一九〇七年一月三十日
韓国		一九〇三年三月七日	一九〇三年二月七日	一九〇三年二月七日
キュバ国	一九〇七年六月五日	一九〇七年四月七日	一九〇七年六月二十九日	一九〇七年六月二十九日
丁抹国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
ドミニケーン共和国	一九〇七年六月五日	一九〇七年四月十三日	一九〇七年六月二十九日	一九〇七年六月二十九日
エクアター国	一九〇七年七月三日	一九〇七年七月三十一日	一九〇七年八月五日	一九〇七年八月五日
西班牙国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日

墺地利洪牙利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
白耳義国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
ボリビー国	一九〇七年六月五日	一九〇七年二月七日	一九〇七年二月七日	一九〇七年二月七日
伯剌西国	一九〇七年六月五日	一九〇七年二月二十五日	一九〇七年二月二十五日	一九〇七年二月二十五日
勃爾牙利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
智利国	一九〇七年六月五日	一九〇七年六月十九日	一九〇七年六月十九日	一九〇七年六月十九日
清国	一九〇四年十一月二十一日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年十一月二十一日	一九〇四年十一月二十一日
コロンビー国	一九〇七年六月五日	一九〇七年一月三十日	一九〇七年一月三十日	一九〇七年一月三十日
韓国		一九〇三年三月七日	一九〇三年二月七日	一九〇三年二月七日
キュバ国	一九〇七年六月五日	一九〇七年四月七日	一九〇七年六月二十九日	一九〇七年六月二十九日
丁抹国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
ドミニケーン共和国	一九〇七年六月五日	一九〇七年四月十三日	一九〇七年六月二十九日	一九〇七年六月二十九日
エクアター国	一九〇七年七月三日	一九〇七年七月三十一日	一九〇七年八月五日	一九〇七年八月五日
西班牙国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日

亜米利加合衆国	一九〇〇年九月四日（一八九六年七月廿五日ノ会議ノ総会ニ於テ為シタル宣言ヲ留保セリ（記録第一都九三頁参照））	一九〇〇年四月九日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
仏蘭西国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
大不列顛国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
希臘国	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日
グワテマラ国	一九〇七年六月五日	一九〇六年五月二日	一九〇三年四月六日	一九〇七年六月五日
ハイチ国	一九〇七年六月五日	一九〇七年五月二十四日	一九〇七年六月二十九日	一九〇七年六月二十九日
ホンヂラス国		一九〇六年八月二十一日	一九〇六年八月二十一日	一九〇六年八月二十一日
伊太利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
日本国	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日
盧森堡国	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日
墨西哥国	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日

亜米利加合衆国	調印批准ナシ	調印批准ナシ	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
仏蘭西国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
大不列顛国	一九〇七年八月三十日	一九〇七年八月三十日	一九〇七年八月三十日	一九〇七年八月三十日
希臘国	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日	一九〇一年四月四日
グワテマラ国				
ハイチ国				
ホンヂラス国				
伊太利国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
日本国	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日
盧森堡国	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日	一九〇一年七月十三日
墨西哥国	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日	一九〇一年四月七日

モンテネグロ国	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇七年十月六日	一九〇七年十月六日	一九〇七年十月六日
ニカラグワ国	一九〇七年六月五日	一九〇七年五月七日	一九〇七年七月五日	一九〇七年七月二十三日	一九〇七年六月二十九日
諸威国	一九〇七年九月四日	一九〇七年七月二十三日	一九〇七年七月二十三日	一九〇七年七月二十三日	一九〇七年七月二十三日
パナマ国	一九〇七年六月五日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日
パラゲー国	一九〇七年六月五日	一九〇七年四月二十三日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日
和蘭国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
秘露国	一九〇七年六月五日	一九〇三年十一月二十四日	一九〇三年十一月二十四日	一九〇三年十一月二十四日	一九〇三年十一月二十四日
波斯国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
葡萄牙国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
羅馬尼亜国	一九〇〇年九月四日	現行条約第十六条ノ提出ニ付テハ第七回ノ会議ニ於テ之ヲ審査シ第十九条ノ委員ニ留保ヲ加ヘタリ	一九〇七年六月五日	一九〇七年六月二十三日	一九〇七年六月二十三日

露西亜国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
サルバドル国	一九〇七年六月二十日	一九〇二年六月二十日	一九〇二年六月二十日	一九〇二年六月二十日	一九〇二年六月二十日
塞爾比亜国	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日
暹羅国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
瑞典国	一九〇〇年九月四日	一九〇七年七月五日	一九〇七年七月五日	一九〇七年七月五日	一九〇七年七月五日
瑞西国	一九〇〇年十二月九日	一九〇七年六月二十日	一九〇七年六月二十日	一九〇七年六月二十日	一九〇七年六月二十日
土耳其国	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日
ウルグェー国	一九〇七年六月十七日	一九〇六年六月二十一日	一九〇六年六月二十一日	一九〇六年六月二十一日	一九〇六年六月二十一日
ベネヂュエラ国	一九〇七年六月十五日	一九〇七年三月一日	一九〇七年三月一日	一九〇七年三月一日	一九〇七年三月一日

モンテネグロ国	一九〇〇年十月六日	一九〇〇年十月六日	一九〇七年十月十七日	一九〇七年十月十七日	一九〇七年十月十七日
ニカラグワ国	一九〇七年六月五日				
諸威国	一九〇七年九月四日				
パナマ国	一九〇七年六月五日				
パラゲー国	一九〇七年六月五日				
和蘭国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
秘露国	一九〇七年六月五日				
波斯国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
葡萄牙国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
羅馬尼亜国	一九〇七年六月五日	一九〇七年八月二十七日	一九〇七年九月四日	一九〇七年九月四日	一九〇七年九月四日

露西亜国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
サルバドル国					
塞爾比亜国	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日	一九〇一年五月十一日
暹羅国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
瑞典国	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日	一九〇〇年九月四日
瑞西国	一九〇〇年十二月二十九日	一九〇〇年十二月二十九日	一九〇〇年十二月二十九日	一九〇〇年十二月二十九日	一九〇〇年十二月二十九日
土耳其国	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日	一九〇七年六月十三日
ウルグェー国					
ベネヂュエラ国					

一九六　明治四十年十月二七日　蘭国公使ヨリ林外務大臣宛

「ニカラガ」共和国ノ宣言加盟通知ノ件

（訳　文）

第一〇六五号

蘭国公使　ジー、ラウドン

外務大臣　林伯爵閣下

以書翰致啓上候陳ハ「ニカラガ」共和国政府ハ千八百九十九年七月二十九日ノ二箇ノ海牙宣言即チ外包硬固ナル弾丸ニシテ其ノ外包中心ノ全部ヲ蓋包セス若ハ其ノ外包ニ截刻ヲ施シタルモノノ如キ人体内ニ入テ容易ニ開展シ又ハ扁平ト為ルヘキ弾丸ノ使用ヲ禁止スルノ宣言及窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルノ宣言ニ加盟スヘキ旨千九百七年十月十一日附ヲ以テ蘭国外務省ニ通知アリタル趣本国政府ノ命ニ依リ去ル十月二十七日附第九六七号拙翰ノ続トシテ閣下ヘ及御通報候

尚又「ニカラガ」国全権委員ヨリ和蘭国政府ニ宛テ前記加盟ノ件ヲ通知シタル去ル九月二十一日附公文並「クリザント、メヂナ」氏全権委任状ノ認證謄本各二部茲ニ差進候間御査収相成度右二部ノ内一部ハ日本帝国政府ノ分他ノ一部ハ韓国政府ノ分ニ有之候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候　敬具

千九百七年十一月二十八日東京ニ於テ

註　右了承ノ旨十二月十二日送第六〇号ヲ以テ回答アリ

附　録　萬国赤十字條約改正会議

一九七　明治三十九年七月九日　白国駐劄加藤公使ヨリ林外務大臣宛

萬国赤十字改正條約送附ノ件

附属書　戦地軍隊ニ於ケル傷者及病者ノ状態改善ニ関スル條約

機密第五号　八月十六日接受

瑞西国ゼネヴァ府ニ於ル赤十字條約改正会議ハ本月五日其議事ヲ了リ翌六日ヲ以テ條約調印ヲ遂ゲ本官ハ本日当地帰任致候該会議事ノ経過並ニ決議ノ要項等ニ関シテハ追テ詳細可及具報候得共不取敢茲ニ新條約書写一通進達候間御査収相成度候

去六日ゼネヴァ最終ノ電信ニテ申進候通リ帝国政府ノ意見ハ大底通過ヲ得タレトモ新條約第廿八條（別紙第十三頁）即我仮定案第廿七條類似ノ條項ニ対シテ日英両国ノ外ハ参列委員一致ノ同意ヲ表シ大勢此ニ至リ如何トモスベカラス遂ニ本官ハ貴電第三号ノ御訓令ニ準シ帝国政府ハ這般直ニ陸軍刑法ニ本件ヲ規定スルコトヲ約シ難キニ付姑ク同條ヲ保留シテ條約ヲ調印スベキ旨宣言シタルニ清国委員モ亦タ類似ノ理由ヲ述ヘテ之ヲ保留スルニ至リ候

露国ノ提案ニ係ル條約解釈ニ関スル一切ノ紛議ヲ海牙常設裁判所ニ提出スルコトヲ條約ニ規定スル問題ニ付テハ南米共和諸国及欧洲諸小邦ハ挙テ竊ニ賛助ノ色ヲ呈シタルモ英米独墺等ノ列強首トシテ反対ノ意向ヲ示シタルタメ露国ハ頗ル難境ニ陥リ遂ニ独国委員ハ本国政府ノ訓令ニ基キ最終議定書中ヘ平時ニ於テ條約解釈ニ付生シタル紛議ハ事情ト場合ノ許ス限リ之ヲ海牙常設裁判所ニ提出スベキ冀望ヲ宣言スベシトノ修正案ヲ提起シタルニ露国委員ハ直ニ立テ之ニ同意セリ蓋シ独墺仏等ハ露国ノ為ニ一活路ヲ開キ右ノ如キ殆無意味ノ仲裁案ヲ提起シタルニ外ナラス然ルニ右ハ海牙條約第十六條ニ規定セラレタル主旨ニシテ大体ニ於テ反対ノ余地ヲ存セザルモ本官ハ貴電第二号ノ御訓令ニ基キ斯ノ如キ冀望ヲ殊更議定書ニ宣言スルノ全然無益ナルコトヲ主張シタレトモ結局決議ノ際英国ヲ除クノ外ハ満場一致ヲ